

健友俳壇 第二十一回

(令和六年七月)

健友俳壇は、会員の皆様が気軽に参加できる事業として、会報第72号（平成26年7月号）から掲載が始まり21回目となりました。今回は、春の「健友旅行」が実施されました。

「一般の句」27句、「旅行の句」27句の投稿があり、板橋区俳句連盟の上田 桜（うえだ さくら）氏に選句と講評をいただきました。

一般の句

●特選（三句）

静けさの

土間に守宮の

夜ごと出づ

鳥田 あい

家を守ってくれるという守宮。土間の冷たさが良いのだろうか、夜毎出てくる作者も守宮を守っているかのよう。

一人聴く

梅雨の足音

夜のしじま

梅澤 輝男

夏の日や

子の顔忘る

母笑顔

高橋 洋子

夏の日のひと日、認知症のご母堂が我が子の顔を忘れて笑顔を向けてくれた。笑顔で多少は救われる思いがした。

●入選（四句）

日盛りに

足首ひたす

有磯海

武居 正次

有磯海は富山湾の別称、歌枕である。一日のうちで最も日差しの強い時間帯に足首まで浸している有磯海の波の音が聞こえてきそう。

春空や

声高々に

童歌

日野原 志津江

乗せるかな

そんな気にさす

花いかだ

日向 日出子

春空に渡る童歌。美しい旋律が聞こえてきそう。

鶯の

初音や孫の

歌に似て

茂木 良一

宮川 修一

鶯の初音が、お孫さんの歌に似ていていた。思わず、鶯の初音をもう一度聞いてみたくなった。

健友旅の句

●特選（三句）

渡渡る

犬吠崎に

白波立つ

細井 榮一

寒々とした犬吠崎の様子が良く出ている。

水郷の

ジャージヤー橋に

春の雨

梅澤 輝男

水郷のジャージヤー橋が面白い。

旧交を

温む春や

バスの旅

寒バス旅の和やかさが伝わってくる。

●入選（四句）

春嵐に 耐えて灯台 仁王立ち

岩瀬 法子

春嵐であるが故に、灯台も仁王立ちしているように見えた。

春あらし 日帰りバスの 犬吠崎

吉賀 のり子

樂しみにしていた日帰りのバス旅行。犬吠崎では特に春の嵐がつらい。

灯台に おだやかな雨 春の海

田中 範行

春の穏やかさが出ている。

一人聴く 屏風岩打つ 春の海

山田常雄

情景がよく出ている。

投稿の句

●一般（二十句）

揚羽蝶 レモンの花を 競ひあふ

初句会 苦吟する吾 齡かな

麗かな 足ぶらりと 背まで寝る

山笑ふ 医者通りの 遠回り

卒園や 桜の下の 初袴

ランドセル 桜に集ふ 三世代

花吹雪 川面に舞ひて 海原へ

舞い上がり あふる笑顔や 半仙戯

孫遊び じじの見守り 春日向

暖かや じじの見守り 孫遊び

惑わせる 出かける足に 春の雨

新緑や つづじ小路の ハナミズキ

けやきの会 新年祝うにぎやかさ

体操し 歌声高く 春立ちぬ

母娘して 五千歩き 春日和

歯科医いで 買物樂し 春衣

春空や 声高々に 童歌

公園の 遊ぶ鳩飛ぶ 春うらら

元日の 絶叫アナウンス凍る

申告書 スマホもにらむ 納税期

宮川

修一

子

投稿の句

●健友旅（二十句）

啓蟄の旅とビンゴの アメに雨

荒波や 我が手に咲きし 風の花

海鳴りや 岩におどりて 孤を描く

犬吠崎 碎ける波や 春疾風

忠敬に 我身を重ね 夢歩く

日本地図 我身を重ね 歩く夢

灯台に 雨おだやかな 気持ち良さ

春あらし 日帰りバスの 犬吠崎

スカイツリー 懇勞照明で 帰り待ち

旅先の 春のあらしに 心ゆれ

犬吠も 春の嵐に 犬吠えまくり

春嵐 坂東太郎も 大暴れ

春浅き 古き佐原に 遠きゆめ

水郷に 激流の音 春時雨

佐原にて 丹波篠山 春想う

犬吠で 寒風強く 春よ来い

温き日に 再度訪ひいたし 佐原まち

春疾風 犬吠崎の 惣濤かな

バスハイク ビンゴうれしや 山笑う

古き友 バスにゆられて 春さがし

久田

輝男

宮川

修一

子

佐藤昭弥

坂本

富江

宮川修一

田中

範行

吉賀

のり子

梅島

縮毛田さえ

岩瀬

雄一

田村弘治

細井榮一

太野垣孝範

中島 実

梅島

輝男

恵津子

従来は、各回の俳壇での発表は一般・旅行それぞれ一人一点の投稿として参りましたが、前回から複数の作品の発表が可能となりました。まだ投稿されたことのない皆様、半年に一点、できましたら、毎月一点の投稿をしてみませんか。会報部では多數の投稿をお待ちしております。

健友俳壇は常に受け付けをしています。一般の句、5月31日までの提出分を会報7月号に掲載、11月30日までの提出分を会報1月号に掲載予定です。